

資料 A ブラジル側投入実績

A-1 人員配置の実績

(1) プロジェクトダイレクター

	氏名	学歴	所属	F/P	着任期間	備考
1)	Alberto Pereira Góes	修士	SEDE 局長	P	2005 年 11 月 2007 年 5 月	
2)	Antônio Carlos da Silva Farias	修士	SEDE 局長	P	2007 年 5 月 2007 年 12 月	
3)	João Cunha	学士	IEF 所長	P	2007 年 12 月 現在	

(2) プロジェクトマネージャー

	氏名	学歴	所属	F/P	着任期間	備考
1)	João Benício	学士	SEICOM 局長	P	2005 年 11 月 2007 年 5 月	
2)	Sebastião Rosa Máximo	学士	SEICOM 局長	P	2007 年 5 月 現在	
3)	Benedito Victor Rabelo	学士	IEPA 所長	P	2005 年 11 月 2007 年 12 月	
4)	Jaezer de Lima Dantas	学士	RURAP 所長	P	2007 年 12 月 現在	

(3)-a 技術スタッフ(現在)

	氏名	学歴	所属	F/P	着任期間	アウトプット、あるいは PDM 活動に対する責任
1)	Guarabichaba Martins Ferreira	学士	IEF 森林資源アクセス部 コーディネータ	F	2008 年 1 月	アウトプット 1、2 活動 1.1&1.2& 3.4
2)	Mario Roberto Marinho	学士	IEF 森林普及課の課長	P	2005 年 11 月	活動 2.3&2.4
3)	Marcos dos Santos Cortês	学士	IEF 森林技師	P	2007 年 5 月	(活動 2.3a)
4)	Fabio Cardoso	学士	IEF 森林技師	P	2008 年 5 月	(活動 3.2)
5)	Eudys Thiago	学士	IEF 森林技師	P	2008 年 5 月	(活動 3.2)
6)	Ronaldo Benedito de Souza	修士	RURAP 牧畜産業技術 部コーディネータ	P	2006 年 1 月	アウトプット 3
7)	Antônio Correa da Cruz	技師補	RURAP 農村普及技術 者	P	2007 年 5 月	アウトプット 3
8)	Marcos Antonio Parro	技師補	SDR 現地進展部門チー プ(マラカ支所)	P	2007 年 5 月	アウトプット 3

資料 A ブラジル側投入実績

(3)-b 技術スタッフ(現在)

	氏名	学歴	所属	F/P	着任期間	アウトプット、あるいはPDM活動に対する責任
1)	Madson Alan Rocha de Sousa	学士	SETEC 技術者	P	2008 年 9 月	活動 2.4a/1, a/3, a/4
2)	Juarez Oliveira	学士	SEICOM 技術者	P	2005 年 11 月	アウトプット 4
3)	Ailson Picanço	学士	SENAI 教師	P	2007 年 1 月	(活動 4.3)
4)	Nonato Picanço	学士	SENAI 教師	P	2007 年 1 月	(活動 4.3)
5)	Marcelo Carim	修士	IEPA 研究者	P	2005 年 11 月	(活動 4.3d)
6)	Joseman Pereira	学士	SEBRAE 技術者	P	2007 年 1 月	(活動 4.3)

(3)-c 技術スタッフ(過去)

	氏名	学歴	所属	F/P	着任期間	アウトプット、あるいはPDM活動に対する責任
1)	Alandy Patricia de Socorro Cavalcante Cimas	修士 博士	SEDE 特別補佐官	F	2005 a 2007	プロジェクトローカルコーディネータ アウトプット 1 活動 1.1a, 1.2, 1-4a&b
2)	Sergio Torres	学士	SEICOM(任命職務)	F	2006 a 2007	プロジェクト総務課
3)	Nelma Pires	学士	SEBRAE (SEBRAE 内部で異動)	P	2006 a 2007	活動 4
4)	Cleuson Alan Barbosa	学士	SEICOM (任命職務)	F	2007 年 8 月 2007 年 10 月	プロジェクト総務課
5)	Mauro Rocha Siqueira	学士	SEICOM(任命職務)	F	2007 年 10 月 2008 年 2 月	プロジェクト総務課
6)	Raimundo Rocha	学士	SDR(任命職務)	P	2006 年 1 月 2006 年 12 月	活動 2
8)	Pablo de Castro Cantuária	学士	IEF 森林技師	P	2007 年 9 月 2007 年 12 月	活動 2.3&2.4
9)	Valberval Ferreira	技師補	RURAP 技術者	P	2007 年 1 月 2008 年 1 月	活動 2
10)	Jairo Alves Gomes	学士	SEICOM マデイラ・モヴェイスプロジェクト部長	P	2005 年 8 月 2007 年 12 月	アウトプット 4 活動 4-1&4-2, 4-3a/2,4
11)	Aristóteles Viana Fernandes	博士	SETEC 局長	P	2007 年 8 月 2008 年 9 月	活動 2-4b

資料 A ブラジル側投入実績

(4) 業務支援スタッフ

	氏名	学歴	所属	F/P	着任期間	アウトプット、あるいは PDM 活動に対する責任
1)	Valdenor Pereira de Souza	技師補	IEF 総務課長	F	2008 年 2 月	

A-2 予算措置の実績 (R\$)

単位: R\$

	費目	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度(*)	合計
1)	日当	0	51,020.00	150,748.62	33,800.00	235,569.02
2)	航空運賃	0		10,335.90	0	10,335.90
3)	燃料	0	2,161.09	25,615.00	6,881.90	34,657.99
4)	コンサルタント契約費	0	7,065.00	0	0	7,065.00
5)	消耗費	0	10,790.00	58,650.86	0	69,440.86
6)	電話料金	0	15,254.12	23,239.92	12,284.75	50,778.79
7)	税金	0		2,738.64	0	2,738.64
	合計 (R\$)	0	86,290.21	20,000.00	0	20,000.00
	合計 (¥) (概算)	0	5,061,784.00	291,328.94	52,967.05	410,586.20

為替:1リアル=61.57 円(2005/2008 平均)

(*)2008 年11月までの総額




資料 B 日本側の投入実績

B-1 専門家派遣の実績

	分野	氏名	派遣期間	m/m	担当アウトプット
1	チーフアドバイザー／森林管理	塚地 俊裕	2005/11-2006/9 2006/11-2007/3 2007/5 -2007/12	11 5 6	総括 アウトプット 0～3
2	木材加工／業務調整	加藤 慎一	2005/11-現在		アウトプット 4
3	アグロフォレストリー	高松 寿彦	2006/6-現在		アウトプット 3
4	社会経済調査	福田 徹	2005/11-2006/5	6	アウトプット 0 (準備期間)
5	市場調査	豊岡 宣紀	2007/2-2007/3	1.4	アウトプット 4
6	チーフアドバイザー	渡邊 満	2008/2-現在		総括 アウトプット 1
7	森林管理	佐藤 卓司	2008/7-2008/8 2008/10-現在	2	アウトプット 2

B-2 研修員受け入れの実績

	氏名	所属・役職	研修コース名	研修期間	PDM 担当部分
1	Ronaldo Benedito de Souza	マネージャー/RURAP	地域住民の生計向上を組み込んだ自然環境プロジェクト	2007/2/26- 2007/3/13	活動 2-1～2-4
2	Mario Roberto Marinho	森林普及マネージャー/IEF	地域住民の生計向上を組み込んだ自然環境プロジェクト	2007/2/26- 2007/3/13	活動 2-1～2-4
3	Nonato Picanço de Sousa Corrêa	教員 I /SENAI	木材加工技術研修とアマパ州におけるブランド化戦略	2007/7/25- 2007/9/23	活動 4-3
4	Ailson Picanço de Sousa Corrêa	教員 II SENAI	木材加工技術研修とアマパ州におけるブランド化戦略	2007/7/25- 2007/9/23	活動 4-3
5	Antônio Correia da Cruz	農業技術普及員 /RURAP	然農業と農業普及研修	2008/7/1- 2008/8/1	活動 3-1～3-1
6	Marcos Antonio Parro	農業技術普及員/SDR	然農業と農業普及研修	2008/7/1- 2008/8/1	活動 3-1～3-1

h
A

資料B 日本側の投入実績

B-4: 在外事業強化費の実績

(ブラジル R\$)

分類	JFY2005	JFY2006	JFY2007	JFY2008*	Total
1 アウトプット 0	41,765.79	72,504.06	3,751.70	0	118,021.55
2 アウトプット 1	0	0	0	6,599.82	6,599.82
3 アウトプット 2	0	10,381.00	61,619.25	32,797.97	104,798.22
4 アウトプット 3	0	18,393.08	41,923.74	15388.98-18	60,316.82
5 アウトプット 4	0	38,482.38	9,316.88	4,859.52	52,658.78
6 燃料	1,834.54	3,724.65	7,498.50	4,286.94	17,344.63
7 その他(日当、消耗品等)	88,090.83	335,221.64	476,025.97	183,100.66	1,082,439.10
合計 (R\$)	131,691.16	478,706.81	600,136.04	231,644.91	1,442,178.92
合計(日本円)	6,696,000	28,081,000	37,330,500	15,904,429	88,011,929

レート R\$1=61.57(2005年から2008年の平均)

*: 9月末現在

本プロジェクトに従事した、あるいは、従事する以下の者にかかる人件費はその他の経費で補填してい

1. 安永 クニヨシ 2005/11/2~2006/7/31
2. 松崎 シンジ 2005/11/2~2006/7/31
3. 斉藤 武雄 2006/6/14~現在
5. 渡邊 エジムンド 2006/6/25~現在




資料 C-1 : マラカ地区 森林管理計画作成～合法材納品の予測スケジュール (2008/11/28 現在)

	ステップ	予測*	備考
(1)	入植地回復計画(PRA)作成		
a	IEPA による PRA 案作成→INCRA/AP へ提出	2008.12	IEPA の作業進行中。当初 10 月提出予定が遅延、12 月中に提出見込み。
b	INCRA/AP 審査・承認	2008.12	
(2)	入植地内 32 箇所のコミュニティに森林管理計画作成を可能にするための ATEXMA 定款変更		
a	ATEXMA の変更案作成→INCRA/AP へ提出	2009.1	・必要条件:(1)の完了 ・先行して変更案完成。提出可能。
b	INCRA/AP 審査・承認→INCRA 本部への提出	2009.1	・本部の関与については要確認
c	INCRA 本部の審査・承認→INCRA/AP へ通知	2009.1	・同上
(3)	入植地利用計画(PU)修正		
a	INCRA/AP による PU 案作成→本部への提出	2009.1	・必要条件:(1)(2)の完了 ・先行して PU 案完成。提出可能
b	INCRA 本部の審査・承認→INCRA/AP へ通知	2009.1	・本部の関与については要確認
(4)	入植地における環境ライセンス取得		
a	INCRA/AP による申請書作成→IMAP に提出	2009.1	・必要条件:(1)-(3)の完了
b	IMAP の審査・承認→SEMA に提出	2009.1	
c	SEMA の審査・承認→INCRA/AP へ通知	2009.1	
(5)	ATEXMA によるマラカの協会が自己の名前で森林管理計画を作成する権利の付与		
a	ATEXMA と協会の協議	2009.2	・必要条件:(2)の完了 ・進行中
b	ATEXMA と協会の合意文書締結	2009.2	
(6)	APAT		
a	協会による必要書類作成→SEMA へ提出	2009.2	・必要条件:(4)-(5)の完了 ・先行して進行中
b	SEMA の審査・承認→協会へ通知 (約 30 日)	2009.3 初	
(7)	協会による森林管理計画作成		
a	インベントリー調査 (毎木調査)	2007.10~12	完了
b	森林管理計画案作成→SEMA に提出	2009.3	・必要条件 : (4)-(6)完了 ・先行して進行中。最終チェックがすめば案完成。提出可能。
c	SEMA による審査・承認→協会へ通知 (30-60 日)	2009.4 末	
(8)	協会内の共同集荷・販売・出荷等のルールづくり		
a	協会内の協議→合意 (内規づくり?)	2009.3~4	・必要条件 : (1)-(5)完了? ・SAF については 12 月に診断・指導。合法材については不明確。
(9)	協会と家具組合の木材供給契約締結		
a	木材供給契約に関する協議(価格・規格・量)	2009.5	・必要条件 : (7)-(8)完了
b	木材供給契約締結	2009.5	・必要条件 : (7)-(8)完了
(10)	マラカ地区合法材の家具組合への納品		
a	協会による伐採	2009.6	
b	協会によるチェーンソー製材	2009.6	
c	協会による木材原産書類の作成	2009.6	
d	協会による搬出・納品	2009.6	

情報源 : 森林管理担当 C/P、専門家、INCRA/AP、SEMA

*但し、INCRA 及び IMAP/SEMA 内部の手続きに係る時間は不明確である。従って、予測よりさらに遅れる可能性がある。

資料 C-2: マザゴン地区 森林管理計画作成～合法材納品の予測スケジュール (2008/11/28 現在)

	ステップ	予測	備考
(1)	GRPU による入植地設立承認		
a	INCRA/AP による必要書類作成→GRPU へ提出	2008.11	・11月に提出された。
b	GRPU/AP による審査→SPU (ブラジリア) へ提出	2008.12	・GRPU/AP で審査中
c	GRPU/SPU による審査・承認	2009.5?	
(2)	入植地設立に関する INCRA の省令		
a	INCRA/AP 内の書類(監査農業診断書・図面等)作成→INCRA 内部の委員会の審査・承認	2009.6?	・必要条件:(1)の完了 ・先行して書類作成進行中。
b	INCRA 省令	2009.6?	
(3)	入植地開発計画 (PDA) 作成		・監査農業診断書で代替可能との意見がある
a	PDA 案作成→INCRA/AP の審査・承認	n/a	・必要条件:(2)の完了
b	INCRA/AP→INCRA 本部への提出	n/a	・本部の関与については要確認
c	INCRA 本部の審査・承認→INCRA/AP へ通知	n/a	・本部の関与については要確認
(4)	入植地利用計画(PU)作成		
a	INCRA/AP と外部機関による PU 作成作業契約	n/a	・必要条件:(2)の完了
b	外部機関によるドラフト作成→INCRA/AP 提出	n/a	
c	INCRA/AP による審査・承認→INCRA 本部提出	n/a	・本部の関与については要確認
d	INCRA 本部の審査・承認→INCRA/AP へ通知	n/a	・本部の関与については要確認
(5)	入植地管理団体の設立		
a	マザゴンの協会の定款変更	n/a	
(6)	INCRA と管理団体の契約		
a	契約に関する協議→契約書作成	n/a	・必要条件:(1)-(5)の完了?
b	契約への署名	n/a	
(7)	入植地における環境ライセンス取得		
a	INCRA/AP による申請書作成→IMAP に提出	n/a	・必要条件:(1)-(6)の完了?
b	IMAP の審査・承認→SEMA に提出	n/a	
c	SEMA の審査・承認→INCRA/AP へ通知 (?日)		
(8)	APAT		
a	入植地管理団体/協会による必要書類作成→SEMA へ提出	n/a	・必要条件:(1)-(7)の完了
b	SEMA の審査・承認→協会へ通知 (約 30 日)	n/a	
(9)	入植地管理団体/協会による森林管理計画作成		
a	インベントリー調査	n/a	・必要条件:土地占有権の確立及び乾季(6/7~12月)に実施されること
b	森林管理計画案作成→SEMA に提出	n/a	・必要条件:(8)の完了
c	SEMA による審査・承認→協会へ通知 (30-60 日)	n/a	
(10)	協会内の共同集荷・販売・出荷等のルールづくり		
a	協会内の協議→合意(内規づくり?)	n/a	・必要条件:(6)完了?
(11)	協会と家具組合の木材供給契約締結		
a	木材供給契約に関する協議(価格・規格・量)	n/a	・必要条件:(9)-(10)完了
b	木材供給契約締結	n/a	・必要条件:(9)-(10)完了
(12)	マザゴン地区合法材の家具組合への納品		
a	協会による伐採	n/a	・必要条件:(11)完了
b	協会によるチェーンソー製材	n/a	
c	協会による木材原産書類の作成	n/a	
d	協会による搬出・納品	n/a	

情報源: 森林管理担当 C/P、専門家、GRPU/AP、INCRA/AP、SEMA

資料 D 活動実績表

No.	POAの活動 Atividades	開始されし 概要	0409/monogramas (baseado nas datas descritas nas colunas a seguir)												実施者 (2008.11の更新 後、計画)	その他主要な投入 (2006.11の家種・計 画)	備考(必要な案件等) (2006.11現在)					
			5 AF, J05 Nov, Jan, Dez	6 AC, J06 Abr, Jul, Jun	7 AF, J07 Abr, Jul, Jun	8 AC, J08 Abr, Jul, Jun	9 AF, J09 Abr, Jul, Jun	10 AC, J10 Abr, Jul, Jun	11 AF, J11 Abr, Jul, Jun	12 AC, J12 Abr, Jul, Jun	13 AF, J13 Abr, Jul, Jun	14 AC, J14 Abr, Jul, Jun	15 AF, J15 Abr, Jul, Jun	16 AC, J16 Abr, Jul, Jun								
アウト プット1			アマパ州政府に、プロジェクト・エリア内の氾濫原における森林資源の持続的活用 のための技術的枠組が構築される。												Guarabichaba Martins Ferreira (IEF)	日:チーフアドバイザー (CA)		進捗(2006.11現在)				
1-1	川岸住民の意見を踏まえた氾濫原における森林資源の持続的利用のための基本方針を作成する。	n/a																	Guarabichaba (IEF)			
a	州政府、連邦政府、NGO、市役所、川岸住民代表者による基本方針作成委員会を設立する。	n/a																	Guarabichaba (IEF)		a/1: 2008.11に連邦政府、州政府からなる検討委員会が設置された。関係機関/リストは州約の通り、NGO、市役所、川岸住民代表の特定が困難であるため、環境団体の代表としてCOEMAをメンバーに加えた。 a/2: 氾濫原の森林資源持続共有のためのセミナーを6月12、13日に開催した。約150名の参加者。報告書は電子ファイルで検討委員に配布。	
b	検討委員会は川岸住民のコミュニティでセミナーを開催する。	n/a																	Guarabichaba (IEF)			
b/1	マラカ地区でセミナーを開催する。	n/a																	Guarabichaba (IEF)	日:レポート、松葉上 費:燃料代、CPの日 当宿泊、セミナー開 催費 同上	A1	2008.9月にマラカ地区でプロジェクトに関する意見を を大きくセミナーが開催され、約30人の協会員が参加 した。
b/2	マザゴン地区にてセミナーを開催する。	n/a																	ditto		A2	2008.9月開催予定のセミナーが、選挙に關係する 日程の都合で11月に延期され、11月8日に開催 された。参加者は約30名。
c	検討委員会はワークショップ、会議における議 論に基づき、基本方針を作成する。	n/a																	Guarabichaba (IEF)			
c/1	基本方針を作成するための会議を開催す る。	n/a																	ditto		A1	基本方針を作成するための会議を4回開催した。
c/2	基本方針を作成するためのワークショップ を開催する。	n/a																	ditto	日:ローカルコンサル タント	A1	2008.11にワークショップ開催。基本方針案が作成され た。
c/3	基本方針を決めるための会議を開催す る。	n/a																	ditto		C2	2008.12月に基本方針を決めるための会議を開 催する。

資料 D 活動実績表

1-2	州政府は、作成された基本方針を、広く周知する。																			
a	プロジェクトのホームページを作成する。	n/a	Guarabichaba (IEF)																	州政府ホームページ内にプロジェクト用のページを作成しており、2008年9月に公開した。
b	基本方針に関するガイド(資料)を作成し、プロジェクトのホームページを通じて広める。	n/a	Guarabichaba (IEF)	↕																2009年3月末までに掲載予定。
c	基本方針に関するガイドを作成し、印刷物として配布する。	n/a	Guarabichaba (IEF)	↕																2009年4月末までに配布予定(1000部)。
1-3	氾濫原における森林資源の持続的利用を担当する組織を州政府内に整備する。		João Cunha Mourão (IEF)	↕																
a	氾濫原における森林資源の持続的利用を担当する組織体制を州政府機関内に整備する。	n/a	Alandy Patricia do Socorro Cavalcante Simas (SEDE)	↕																2007.4、農村開発局(SDR)の下部組織として森林院(IEF)が設置された。その中の森林技術調整部が技術的に森林資源の持続的利用を担当している。2008年から予算・人員が配置されている。
b	プロジェクトを現地指導する、4人編成の(リーダー1名+技術者3名)の作業チームを設置する。	n/a	Alandy (SEDE)	↕																実施体制の変更により、作業チームは必要に応じて編成されている。
1-4	川岸住民と関係機関の間で氾濫原の森林資源の持続的利用に関する定期的な会議を実施する。		Arandy (SEDE)	↕																
a	マザン郡において、氾濫原運営委員会の会議を必要に応じて開催する。	n/a	Arandy (SEDE)	↕																・川岸住民と関係機関職員との協議は不定期に開催されたが、他の活動とも重複し、頻繁に協議は行われ、その結果IEFの政策や基本方針策定の土台となる情報が収集された。 ・実施体制の変更により、氾濫原運営委員会は設置しないこととした。
b	ターゲットサイトにおいて、意見交換を四半期ごと又は必要に応じて開催する。	n/a	Arandy (SEDE)	↕																2007年第4四半期に会議が開催されていない、但し土地使用権に関する会議や、農林協会運営強化研修など、頻繁に協議の機会があることから、本活動は2007年7月で完了したものと判断した。

資料 D 活動実績表

アウト プロジェクト	川岸住民により持続的森林管理が実践される									日: CA		
2-1	各ターゲットサイトにおいて、川岸住民によるアグロフォレストリー・システムを活動として含む農林協会を立ち上げる。	Guarabichaba (IEF)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	日: ポート 燃料代、CPの日当 燃料、セミナー開催 費	A1	
a	プロジェクト作業チームが、コミュニティ単位で協会設立のためのセミナーを開く。		Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	同上	A1	マラカ地区では2006.7、マザゴン地区では2006.9に設立された。
b	Formação das Associações Agro-Florestais: 農林協会を立ち上げる。		Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)		A1	
2-2	農林協会の経営能力強化を図るため、関連協会のメンバーに対し、研修を実施する。		Ronaldo Ronaldo Benedito de Souza (RURAP)	Ronaldo Ronaldo	Ronaldo Ronaldo	Ronaldo Ronaldo	Ronaldo Ronaldo	Ronaldo Ronaldo	Ronaldo Ronaldo			
a	RURAPが農林協会の運営能力強化研修を実施する。		Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	日: ポート 燃料、燃料費CPの日当 燃料、研修実施経 費	A1	2006.11、RURAPが協会の能力強化研修を実施 (マラカ地区とマザゴン地区)
b	RURAPが外部コンサルタントと連携し、農林協会の運営能力を強化するための研修を実施する。		Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	Ronaldo (RURAP)	日: ポート、船積上 料、ローカルコンサル タント費、燃料費、CPの日 当燃料費	A1	2007.10-2008.9に外部コンサルタントを雇用して農 林協会経営能力強化の研修を実施した。
2-3	森林管理計画の作成について各協会を支援する。		Mario Roberto Marinho (IEF)	Mario Roberto Marinho (IEF)	Mario Roberto Marinho (IEF)	Mario Roberto Marinho (IEF)	Mario Roberto Marinho (IEF)	Mario Roberto Marinho (IEF)	Mario Roberto Marinho (IEF)			
a	第1回森林インベントリー調査を計画、実施し、持続可能な森林管理計画(PMFIS)を作成する。	マラカ地区	ditto	ditto	ditto	ditto	ditto	ditto	ditto	日: 業務経費、ポ ート、GPS、ローカルコ ンサルタント費 B: 燃料費、CP日 当燃料	A1	2007.9-12に川岸住民とともにインベントリー調査を 行った(毎本調査)
a/1	第1回森林インベントリー調査を計画する。	n/a	ditto	ditto	ditto	ditto	ditto	ditto	ditto			
a/2	第1回森林インベントリー調査を実施する。	n/a	ditto	ditto	ditto	ditto	ditto	ditto	ditto			
a/3	インベントリー調査の結果を踏まえ、最初の特許可能な森林管理計画(PMFIS)を作成する。	n/a	ditto	ditto	ditto	ditto	ditto	ditto	ditto	日: 森林管理計 画作成用ソフト	B2	* 2008.8月にマラカ地区のPMFIS案を作成した。 年間伐採量30m3/ha。その後の使用機材等の調 査(活動2-4b)の結果により、10m3/haに修正中。 * PMFIS案は作成されたが、左記必要要件の最初 のステップである入地回遊計画の作成が遅れて おり、また承認にいたっていない。活動2.4(計画の 実施)には遅くとも2009.2末までには承認される必 要がある。現在のところ、開調にしなければ承認される 見込みである。

資料 D 活動実績表

b	第2回森林イベントリ-調査を計画、実施し、各種計画を作成する。								Marinho (IEF)	n/a					D	マザガウエン、ベ-リヨ地区でINCRA-GRPIUIによる入植地設立手続が進行中。現在のスケジュールからみて、2009年2月以降になる見通し。
b/1	第2回森林イベントリ-調査を計画する。								dilto	n/a					D	同上。但し2009年2月時点で入植地が設立、入植地開発計画等が作成されない場合は、本活動は実施不可能と判断される。
b/2	第2回森林イベントリ-調査を実施する。								dilto	n/a					D	同上
b/3	各種計画を作成する。								dilto	n/a					D	同上
c	木材の種類と量を含む需要について SINDIMOVEIS/CADIMAと議論し、計画する。								Marinho (IEF)	n/a					B1	必要な条件: 各地区においてイベントリ-調査が終了する(活動2-3a/2, b/2)
d	伐採、土地利用転換、アサイ-林管理のための許可(AUTEX)をSEMAから取得する。								Marinho (IEF)	n/a					B1	必要な条件: 各地区においてアサイ-林管理の実施のために、プロジェクトエリアにおいて森林管理活動と調整しつつ、2008年12月以降、申請・取得手続を支援する。
2-4	各協会のメンバーに対し、森林管理計画の実施を支援する。								Marinho (IEF)							
a	管理計画に基づき、研修の構成と内容を計画し実施する。								Marinho (IEF)							
a/1	森林環境に負荷の少ない、樹木の伐採と丸木生産を目的としたチェンソー使用方の研修を実施する。								Madson Aran Rocha de Souza (SETEC)	Marinho(IEF)					B2	・2008年10月、マラカ地区25名に対してチェンソー操作の研修を実施した。 ・2008年11月、第2回研修を実施中。
a/2	環境への低インパクトを考慮した製材技術の改善のための調査を実施する。								Ailson (SENAI)	n/a					A1	2007年2月、プロジェクトエリアにおいて、SENAIのC/PIにより製材技術改善のための調査が実施された。
a/3	俗名プラクウ-バに関する種類同定の調査を実施する。								Madson Aran Rocha (SETEC)	Madison(SETEC) Eudy(IEF)					A1	・2007年9月-12月にマラカ地区で実施した森林イベントリ-調査の結果、対象地域で伐採可能な樹木の約85%が俗名プラクウ-バであると判明。2008年7月、樹種を特定するため調査を実施。すべて学名Mora paraenseであることを明らかにした。

資料 D 活動実績表

a/4	俗名ブラクウーバの木材の適合性に関する調査を実施する。	n/a							Madson Aran Rocha(SETEC)	ditto	同上	2008年7月にMora paraenseの標本をパラー州のEMBRAPAへ提供。EMBRAPA研究者の協力により木材の適合性に関する調査を実施中。2008年11月完了予定のころ、結果取り纏めは12月に延期予定。
a/5	PMFSIに関するセミナー及び又は研修コースを実施する(マラカ及びマザゴン)。	n/a						Maninho (IEF)	n/a		日:ローカル専(森林管理)、ポート燃料費、CP日当	2008年10月のチェンソー研修の参加者を対象にPMFSのセミナーを実施。
b	PMFS実施のための必要機材と端材利用に関する調査を実施する。							Maninho (IEF)				
b/1	運材機付小型船(通称タルターカ)の利用の可能性について調査する。	n/a						ditto	Maninho(IEF)		日:ローカル専(森林管理)、業務補佐	2008年8月にタルターカの調査を実施。アマパ州で1機存在を確認したが、修理に膨大な費用がかり、導入困難と判断した。
b/2	移動製材機について現地適合の調査を実施する。	n/a						ditto	ditto		日:ローカル専(森林管理)、業務補佐	2008年10月にインターネットにより移動製材機について調査。プロジェクト・エリアの現状に合わないため、移動製材機の使用は困難と判断した。
b/3	端材利用のための調査を実施する。	n/a						ditto	ditto		日:ローカル専(森林管理)、業務補佐、燃料費、CP日当	2008年10月に家具協会会長と端材利用についてプロジェクト・エリア(マラカ地区)で意見交換。出材が始まる頃に再調査する。
c	某運材の低コスト技術に関する調査を実施する。							Maninho (IEF)				
c/1	丸太と製材板の牽引について、伝統的な生産方法を分析する。	n/a						ditto	Maninho(IEF)		日:ローカル専(森林管理)、業務補佐、ポート燃料費、CP日当	2008年10月、川岸住民を対象にインタビュー調査を実施した。
c/2	丸太と製材板の浮利用の運搬について、伝統的な生産方法を分析する。	n/a						ditto	ditto		同上	2009年1月~2月の雨季に調査する。
c/3	丸太と製材板の牽引のための機械と動物利用について調査を実施する。	n/a						ditto	ditto		同上	同上
d	計画の実施において農林協会メンバーを指導する。							Maninho (IEF)				
d/1	調査結果に関して農林協会メンバーに指導を行う。	n/a						ditto	Maninho(IEF)		日:ローカル専(森林管理)、業務補佐、ポート燃料費、CP日当	2008年10月、森林インベントリー調査の結果を住民に説明。その他調査結果に基づき指導は2009年3月実施予定。
d/2	森林管理計画の実施において指導を行う。	n/a						ditto	ditto		同上	

必要条件:
 (1)マラカ地区のPFMSが承認される(活動2.3参照)
 (2)家具組合と木材供給契約が結ばれる(活動4.2c参照)

資料 D 活動実績表

アウト プット3	川岸住民により、アグロフォレストリー・システムが導入される	Ronaldo (RURAP) Marcos Antonio Parro (SDR) Antônio Corrêa da Cruz (RURAP)	日:ローカル専(S4)				
3-1	各地域の状況に適したアグロフォレストリー・システムの実施計画を作成するための会議の準備において、各協会を支援する。	Ronaldo(RURAP) Marcos (SDR) Antônio (RURAP)					
a	アグロフォレストリー・システム(SAFs)の組合せを選択するために川岸住民を支援する。	Ronaldo(RURAP) Marcos (SDR) Antônio (RURAP)	日:ポルト 燃料費、CP日当 宿泊	A1	06年11月、作物選定会議開催、アラカ地区(MC)17人、マザガワンペーリ地区(MZ)13人、普段の個別指導で作物組み合わせを指導する。		
b	年間の補付け計画作成において川岸住民を支援する。	Ronaldo(RURAP) Marcos (SDR) Antônio (RURAP)			07年6月補え付け計画セミナー、MC20~23、16名、MZ26~28名、23名		
b/1	SAFs実施の需要とアイデアについて川岸住民に対してインタビューを実施する。	ditto	日:ポルト 燃料費、CP日当 宿泊	B1	補え付け実績及び補え付け計画についてのインタビュー調査をSAF指導をかねて実施する。07年5月~6月、MC24家族、MZ29家族対象。08年9月~11月、MC37家族、MZ33家族		
b/2	年間の作物計画作成のために指導及び支援を行う。	ditto	日:ポルト 燃料費、CP日当 宿泊	B1	上記インタビューと同時に指導を行う。		
c	川岸住民の計画を取り纏めるため農林協会の支援する。	Ronaldo(RURAP) Marcos (SDR) Antônio (RURAP)					
c/1	計画の作成を指導する。	ditto	Ronaldo(RURAP) Marcos(SDR) Antônio(RURA P)	B1	毎月の巡回指導において計画作成の指導を行う。		
c/2	計画の作成に関する研究を実施する。	ditto	日:ポルト 燃料費、CP日当 宿泊	B1	06年11月地域としての作物選定会議を行う。07年6月SAF補え付けと計画の立て方につきセミナー実施。08年9月の農林協会運営強化研修の一環として、計画の作成に関する研究を実施。		
3-2	川岸住民(協会員)に対し、作成された計画に従ったアグロフォレストリー・システムの実践を支援する。	Ronaldo(RURAP) Marcos (SDR) Antônio (RURAP)	日:本研修(2名)				
a	アグロフォレストリー・システム(SAFs)の技術、適切な生産物の収穫、取扱い、輸送、アグロフォレストリーの先進地視察、環境教育、家畜の飼養に関する研究を行う。	Ronaldo(RURAP) Marcos (SDR) Antônio (RURAP)	日:ポルト 燃料費、CP日当 宿泊	B1	06年9~10月SAFIに関する総合セミナー開催。MC23名、MZ36名参加。各二日間。07年6月SAFセミナー、MC18名、MZ23名参加。各3日間。06年11~12月及びアサイ管理講習MC23名、MZ31名。07年8月アサイ管理講習MZ43名参加。		
a/1	SAFsの技術に関する研修を計画し実施する。	ditto	日:ポルト 燃料費、CP日当 宿泊	B1			

資料 D 活動実績表

a/2	生産物の適切な収穫、取扱い、輸送に関する研修を計画し実施する。	n/a									Ronaldo(RRUA P)	日:ポルト 燃料費、CP日当 備注	C2	2008年12月に各地区で1回実施予定。
a/3	SAFの先進地視察を計画し実施する。	n/a									Ronaldo(RURA P) Marcos (SDR) Antônio (RURAP)	日:ポルト 燃料費、CP日当 備注	A1	07年6月マザゴン・ノーボ、ジョンビーの農場視察、MC/MZ合わせて24名参加。08年度から毎年1回(計3回)、川岸住民を対象にパラー州におけるSAFの先進地視察を計画、実施した。計14名が参加。
a/4	環境教育の研修を計画し実施する。	n/a									Ronaldo(RURAP)	日:ポルト 燃料費、CP日当 備注	B1	06年9・10月のSAF総合研修において、環境について講義された。また、普段の巡回指導の中では常に環境問題に触れることが多い。 子供に対する環境教育は08年8月にプロジェクト・エリア/MCの小学校で環境教育を実施した。(参加者28名)
a/5	家畜の飼育に関する研修を計画し実施する。	n/a									Marcos (SDR) Antônio (RURAP)	日:ポルト、飼料用粉 燃料費(マラカドマザガウン)、燃料費、CP日当 備注	B1	07年8月、天然資源家畜飼料について講習3日間、MZ26人。07年11月、家畜飼料講習、MZ2日間、21人参加。08年5月家畜飼料及び飼養につき講習4日間、MC述べ92人。08年9月自然農業隊に関する講習実施、MC36人 2008年10月、マラカド地区で自然農業隊の研修実施 MC18人、2008年9月、自然農業隊システムについて講演、一回目二地区で55人、二回目二地区で36名。08年10月養豚講習MC二地区で32名、11月養豚講習MZ40人。11月、自然農業隊システム共同講習作り指導延べ10日52人。同シ
b	定期的に川岸住民を訪問し個別に技術指導を行う。										Ronaldo(RURAP) Marcos (SDR) Antônio (RURAP)			
b/1	種付けの技術指導を行う(月1,2回)。	n/a									Ronaldo(RURA P) Marcos (SDR) Antônio (RURAP)	日:ポルト、苗木 燃料費、CP日当 備注	B1	ハナ子やサイー、用材用樹木等、SAFの混植に必要苗木を確保し、川岸住民に提供し、毎年主に11月から翌年2月ころにかけて植え付けの指導を行った。普段の個別巡回指導は06年9月以来現在まで、延べ141回行われた。
b/2	苗木、苗木の設置と管理に関する技術指導を行う(月1,2回)。	n/a									Marcos (SDR) Antônio (RURA P)	日:燃料費、ポルト 燃料費、CP日当 備注	B1	SAF導入に必要な苗木を確保するため、07年3月より共同苗木4ヶ所の整備、育苗に関する指導は暫くに行われてきた。用材用樹木の森林内の雑草や種の共同採取作業(07年4月、08年5月など)及び育苗に関しては住民による主体的な共同作業が行われつつある。また個人で苗木をつくる川岸住民も増え始めている。
b/3	活動をモニタリングする。	n/a									Ronaldo (RURAP) Antônio (RURA P)	日:ポルト 燃料費、CP日当 備注	B1	07年10月及び08年3月及び08月に一斉モニタリングを行った。また、普段の巡回指導で常にモニタリングは行われている。
c	融資制度へのアクセスを容易にするため生産者を指導する。										Ronaldo(RURAP) Marcos (SDR) Antônio (RURAP)			
c/1	融資制度のメリットについて川岸住民の理解を促す。	?									Ronaldo(RURA P) Marcos (SDR) Antônio	日:ポルト 燃料費、CP日当 備注	B1	06年9月、10月のSAF総合セミ、08年協会運営セミナー
c/2	融資制度の利用を可能とする、GRPU/SPUIによる土地利用許可及びINCRAIによる入植地設立を支援する。	n/a									Marcos (SDR) Antônio (RURAP)		B1	2008年6月、マザガウン・パラー州地区75家族に対して、GRPUによる土地利用許可書発行を支援した。 2008年4月、8月、川岸住民と共にINCRAIと会議し、マザガウン・パラー州地区における入植地設立のスケジュール確認をした。

資料 D 活動実績表

3-3	アグロフォレストリーシステムの技術的な評価を支援する。																		IEFRURAP			2008.9のJCCで追加された活動。	
a	コミュニティ苗木における苗木の生産と植林について技術的な評価を行う。	n/a																	IEFRURAP	Marcos(SDR)	日・ポート 苗木建設費、苗木代 燃料費、CP日当 備油	B1	2008年12月に技術者による評価方法に関する会議を開催する予定。
b	苗木の枯死率、生産性、年間成長量について評価する。	n/a																	IEFRURAP	n/a	日・ポート 燃料費、CP日当 備油	B1	同上
c	評価結果について普及用資料を作成する。	n/a																	IEFRURAP	Marcos(SDR)	日・ポート 燃料費、CP日当 備油	C2	SAFのこれまでの経験を日本語で記述中。上記評価結果を踏まえ、加筆、修正したもの、ポルトガル語に翻訳し、普及用資料を作成する。
3-4	各協会のメンバーに対し、農林アグロフォレストリー生産物の集荷、輸送及び有利販売の促進を支援する。																		Guarabichaba (IEF) Marcos (SDR) Antônio (RURAP)				
a	生産物の認証を取得するため協会のメンバーを支援する。																		Ronaldo(RURAP) Marcos (SDR) Antônio (RURAP)				
a/1	認証取得のメリットについて理解を促す。	n/a																	ditto	Ronaldo(RURAP) Antônio (RURAP)	日・ポート 燃料費、CP日当 備油	B1	2008年11月、マザガウン・ベネリヨ地区にて認証取得のメリットを説明。
a/2	認証取得のための可能性について現状診断を行う。	n/a																	ditto	Ronaldo(RURAP) Antônio (RURAP)	日・ポート 燃料費、CP日当 備油	C2	2008年12月に短期ローカル専門家を招聘し実施予定。
a/3	生産物の認証取得のための指導を行う。	n/a																	ditto	Ronaldo(RURAP) Antônio (RURAP)	日・ポート 燃料費、CP日当 備油	C2	現状診断を踏まえううえで、2009年1月以降実施予定。認証取得が困難と判断された場合は、将来的な取得に向けた指導を行う。
b	農林産物の集荷、共同輸送、販売について協会のメンバーを支援する。																		Ronaldo(RURAP) Marcos (SDR) Antônio (RURAP)				
b/1	集荷、共同輸送及び適切な市場における販売のメリットについて理解を促す。	n/a																	ditto	Marcos (SDR)	日・ポート 燃料費、CP日当 備油	B1	07年1月米国家アサイ加工販売会社(搾汁工場)に両地区農林協会の役員10名の訪問機会を提供。07年2月搾汁工場運営者を現地へ案内し、協会員と話し合いの機会を持たせた。MZ28名、MC37名。08年から08年まで三度実施された先進地視察を通じて、有利販売(認証取得、共同集荷・販売・輸送等)の方法を指導した。
b/2	集荷、共同輸送及び適切な市場における販売の可能性について現状診断を行う。	n/a																	ditto	Marcos(SDR)	日・ポート 燃料費、CP日当 備油	C2	2008年12月に実施予定。
b/3	集荷、共同輸送、適切な市場における販売について指導を行う。	n/a																	ditto	Marcos(SDR)	日・ポート 燃料費、CP日当 備油	C2	現状診断を踏まえううえで、2009年1月以降実施予定。

資料 D 活動実績表

アウト ブック4	川岸住民と家具産業の連携体制が構築され、強化される	Juarez (SEICOM)						
4-1 農林協会と家具業界 (SINDIMOVEIS/UNIMOVEIS/CADIMA)との間で、 連携体制が構築、強化されるためのアイデア/意見 交換を目的とする会議を定期的に開催する。		Juarez (SEICOM)						
a 第1回情報交換会議を行う(家具業界による議 題)。	↕	ditto	Juarez Oliveira (SEICOM) Alison(SENAI)	必要なら、燃費費、 船積上費 BOPの日常宿泊、セ ミナー開催費	必要なら条件、森林管 理計画承認の目途 が立つこと。	A1	・ 第1回目的の情報交換会議が2008年9月(マザカウ ンペーリヨ地区)、10月(マラカ地区)に行われた。 マザカウンペーリヨ地区の参加者はマザカウンペ 協会会長とアマバ家具協会会長。マラカ地区は約 20人で、主な参加者はマラカ農林協会会長とアマ バ家具協会会長。	
b 第2回情報交換会議を行う(農林協会による議 題)。	↔	ditto	ditto	同上	同上	C1	2009年2月実施予定。	
c 第3回情報交換会議を行う(家具業界による議 題)。	↔	ditto	ditto	同上	同上	C1	2009年3月実施予定。	
4-2 農林協会に対し、アマバ州家具組合(UNIMOVEIS) との合法木材供給契約の署名及び履行を支援す る。	↕	Juarez (SEICOM)						
a アマバの家具業界に関する講演を行う。	↕	ditto	Juarez Oliveira (SEICOM) Alison(SENAI)	必要なら、燃費費、 船積上費 BOPの日常宿泊、講 演開催費	必要なら条件、森林管 理計画承認の目途 が立つこと。	A1	・ 木材供給契約の前提として、川岸住民にアマバ 州の家具業界の現状を理解してもらうため、2008 年10月、プロフェット・エリア(マラカ)において講演 会を開催した。参加人数は20人、主な参加者は家 具協会会長 農林協会会長	
b 木材の規格、量、質に関する指導を行う。	↕	ditto	Juarez Oliveira (SEICOM)	同上	同上	C1	2009年2月実施予定。	
c 木材の売買契約に関する指導を行う。	↕	ditto	ditto	同上	同上	C1	2009年2月実施予定。	
d 木材の伐採、製材、選別、家具業界との契約 に基づく生産物の供給について指導を行う。	↕	ditto	ditto	必要なら、燃費費、 船積上費 BOPの日常宿泊	必要なら条件、森林協会 (マラカ)と家具組合 の間に木材供給契 約が締結される	C1	2009年3月実施予定。	
4-3 農林協会との連携を強化し、合法材の安定した 市場を確保するため、持続的開発のための家具 業界の企業力を高める。	↕	Joseman Pereira da Silva (SEBRAE) Juarez (SEICOM)						
a アマバの家具業者の実態調査を行う。	↕	Juarez (SEICOM)						
a/1 州内の家具市場の現状(生産量、研まれ る樹種、デザイン、価格帯など)の調査を 行う。	↕	ditto	Juarez Oliveira (SEICOM)	日車高際賃費		B1	2008年10月～12月にかけて実施。結果は2009年2 月予定。	

資料 D 活動実績表

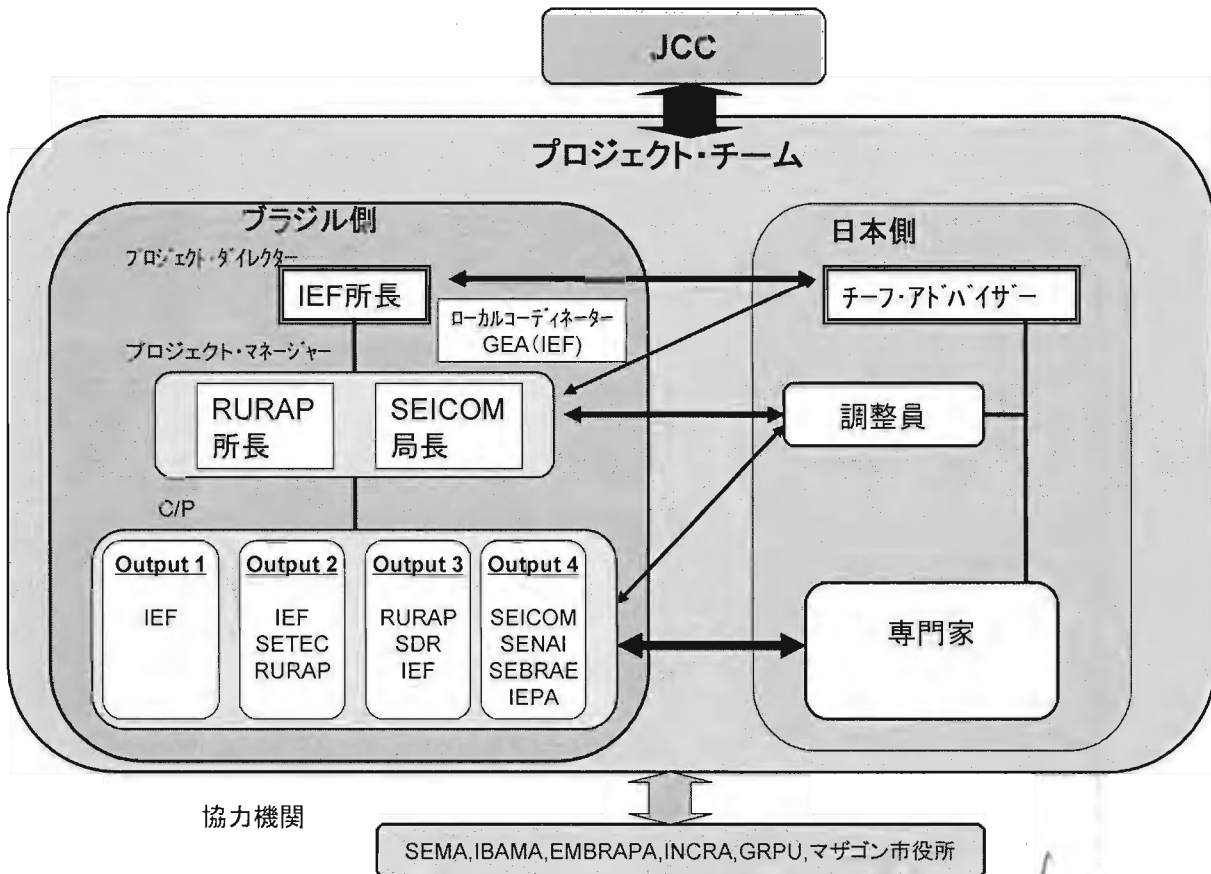
a/2	n/a	マカパ市内の家具業者による、汎濫原から生産される木材を用いた家具の年間生産高を調査する。													同上		
a/3	n/a	汎濫原から生産される木材のうち、家具生産に適した樹種及びその生産量のポテンシャルを調査する。													同上		
a/4	n/a	家具加工業者の現状(技術レベル、従業員数、収入、経営形態など)を調査する。													同上		
b		木材の価値を高めるための技術に関する研修を行う。															
b/1	n/a	第1回家具生産技術研修												Jozeimar Juarez (SEICOM)			
b/2	n/a	2° Curso de Treinamento de técnica para fabricação de móveis.												Alison, Nonato(SENAP)		A1	2006.8-9月にCASA DA HOSPITALIDADEで実施。参加者9名。詳細は資料「木材加工研修まとめ」参照。
b/3	n/a	3° Curso de Treinamento de técnica para fabricação de móveis.												ditto		A1	2006.11-12月にCASA DA HOSPITALIDADEで実施。参加者7名。詳細は資料「木材加工研修まとめ」参照。
b/4	n/a	4° Curso de Treinamento de técnica para fabricação de móveis.												ditto		A1	2007.2-3月にCASA DA HOSPITALIDADEで実施。参加者11名。詳細は資料「木材加工研修まとめ」参照。
b/5	n/a	5° Curso de Treinamento de técnica para fabricação de móveis.												ditto		A1	2007.5-7月にCADIMAで実施。参加者12名。研修場所を新設のCADIMAに移行したため、工房備品・機構整備中心の研修。詳細は資料「木材加工研修まとめ」参照。
b/6	n/a	6° Curso de Treinamento de técnica para fabricação de móveis.												Juarez (SEICOM)		A1	2007.5-7月にCADIMAで実施。参加者10名。詳細は資料「木材加工研修まとめ」参照。
b/7	n/a	7° Curso de Treinamento de técnica para fabricação de móveis.												ditto		C1	08年11月3日～14日で開催予定であったが、CADIMA改修工事が遅延の為、2009年1月19日～1月30日に変更
b/8	n/a	家具及び生活小物の生産技術研修(個別指導)												ditto		C1	09年3月末～4月中旬まで
b/9	n/a	木材及び家具に関するセミナーを開催する。												ditto		C1	1回の研修は、半日から1日程度を想定しており、家具業者やC/Pからの要望を受け、日程や内容を調整する。 第7回目木材加工研修の最終日に実施予定。プロジェクト終了セミナーの一部として開催。

資料 D 活動実績表

c	研修施設を家具業者へ公開利用できるよう整備する。	n/a																		現在、床補修工事が終了し木材加工機械の設置工事中。8年12月には屋根延長工事を除き公開の見込み
d	汜蓋原から採取される種子から搾油されるもので、家具用塗料に適したオイルについて調査する。	n/a																		椰子科の種子からは適合するものは無し。その他、ソル科などサンブルが採取できる時期に順次調査を行い、報告書にまとめる予定
e	ブラジルの都市部におけるフェアに参加する。																			
e/1	エキソックス・フェアに生産物を展示する。	n/a																		2006年10月、アマパ州産業物産展に木材加工研修で製作された家具を展示、紹介した。
e/2	エキソポ・フェアに参加する。	n/a																		2008年9月、アマパ州産業物産展に木材加工研修で製作された家具を展示、紹介した。
e/3	大都市におけるフェアに参加する。	n/a																		2008年11月25日～11月30日、マラニョン州サンルイスで開催されるAMAZONTECHに参加する予定。

資料 E プロジェクトの実施体制図

アマパ州の氾濫原における森林資源の持続的利用計画プロジェクト 新実施体制図



Handwritten signature

資料 F 略語表

	日本語 Japonês	ポルトガル語 Português
ABC	ブラジル外務省ブラジル協力庁	Ministério das Relações Exteriores/ Agência Brasileira de Cooperação
APAT	森林管理計画の技術的検討のための事前許可	Autorização Previa à Análise Técnica do Plano de Manejo Sustentável
APL	アマパ州木材家具プロジェクト	Madeira Móveis do Amapá
ATEXMA	マラカ農業採集労働者協会	Associação de Trabalhadores no Assentamento Agroextrativista Maracá
CADIMA	アマパ州家具産業開発支援センター	Centro de Apoio à Indústria Moveleira do Amapá
CEDRS	持続的農業開発委員会	Conselho Estadual de Desenvolvimento Rural Sustentável
CEAP	アマパ州高等教育センター	Centro de Ensino Superior do Amapá
COEMA	州環境委員会	Conselho Estadual do Meio Ambiente
CONAMA	国家環境委員会	Conselho Nacional do Meio Ambiente
C/P	カウンター・パート	Contraparte
EMBRAPA	ブラジル農牧研究公社	Empresa Brasileira de Pesquisa Agropecuária
GRPU	国家資産管理事務所（支所）	Gerencia Regional do Patrimônio da União
IBAMA	ブラジル環境再生可能天然資源院	Instituto Brasileiro de Meio Ambiente e dos Recursos Naturais Renováveis
IBAMA/DBFLO	ブラジル環境再生可能天然資源院 生物多様性・森林持続的利用部	Instituto Brasileiro de Meio Ambiente e dos Recursos Naturais Renováveis, Diretoria de Uso Sustentável da Biodiversidade e Floresta
IEPA	アマパ州科学技術研究所	Instituto de Pesquisas Científicas e Tecnológicas (Amapá)
IMAP	アマパ州環境院	Instituto do Meio Ambiente do Amapá
IN	訓令	Instrução Normativa
INCRA	植民農地改革院	Instituto Nacional de Colonização e Reforma Agrária
JCC	合同調整委員会	Comitê de Coordenação Conjunta
JICA	国際協力機構	Agência de Cooperação Internacional do Japão
M/M	ミニッツ	Ata de Entendimento
MMA	伯国環境省	Ministério do Meio Ambiente
ODA	政府開発援助	Assistência Oficial ao Desenvolvimento
O&M	保守管理	Operação e Manutenção
ONG	NGO	Organização Não Governamental
PDA	入植地開発計画	Plano de Desenvolvimento de Assentamento
PAE	採集入植地計画	Plano de Assentamento Extrativista
PDM	プロジェクト・デザイン・マトリクス	Matriz do Desenho do Projeto
PDMe	評価用プロジェクト・デザイン・マトリクス	Matriz do Desenho do Projeto para Avaliação

資料 F 略語表

	日本語 Japonês	ポルトガル語 Português
PIB	国内総生産	Produto Interno Bruto
PO	活動計画	Plano de Operações
PDA	入植地開発計画	Plano de Desenvolvimento de Assentamento
PRA	入植地回復計画	Plano de Recuperação de Assentamento
R/D	協議議事録	Registro de Discussões
RURAP	アマパ州農村技術普及機関	Instituto de Desenvolvimento Rural do Amapá
SAF	持続的アグロフォレストリーシステム	Sistemas Agro-Florestal
SDR	アマパ州農林水産局	Secretaria de Estado de Desenvolvimento Rural
SEBRAE	ブラジル零細・小企業支援サービス	Serviço Brasileiro de Apoio à Micro e Pequena Empresa
SEDE	アマパ州経済開発特別局	Secretaria Especial de Desenvolvimento Econômico (Amapá)
SEICOM	アマパ州商工鉱局	Secretaria da Indústria, Comércio e Mineração (Amapá)
SEMA	アマパ州環境局	Secretaria de Estado do Meio Ambiente (Amapá)
SENAI	全国工業職業訓練機関	Serviço Nacional de Aprendizagem Industrial
SEMAR	全国農業職業訓練機構	Serviço Nacional Aprendizagem Rural
SEPLAN	アマパ州計画調整局	Secretaria de Estado do Planejamento e Coordenação Geral (Amapá)
SETEC	アマパ州科学技術局	Secretaria de Estado da Ciência e Tecnologia (Amapá)
SINDMOVEIS	アマパ州家具企業連合	Sindicato da Industrias Moveleiras
SISNAMA	国家環境システム	Sistema Nacional do Meio ambiente
TAC	行動調整協定書	Termo de Ajuste de Conduta
TCTP	第三国研修	Treinamento em Terceiros Países
TOR	TOR	Termo de referência
UNIMOVEIS	エウノパマ州家具組合	União/Cooperativa Moveleira do Amapá
UNIFAP	アマパ州連邦大学	Universidade Federal do Amapá

